

都市と大地の隙間

都市の中のガラスブロック

都市の硬質さ、疎外性は境界に入る圧倒的なコンクリートのボリュームによる。ガラスブロックは新しい都市の形を描く可能性を持っている。その際(きわ)に自然を置くことによりコンクリートのような均一性から都市を開放でき、常に生の気配を感じ取れるようになる。ガラスブロックを使ってこんなふうに都市と自然が共存出来るのではないだろうか。特に日本人は自然を制圧するのではなく、共存してきた民族なのだから。



オフィス/店舗

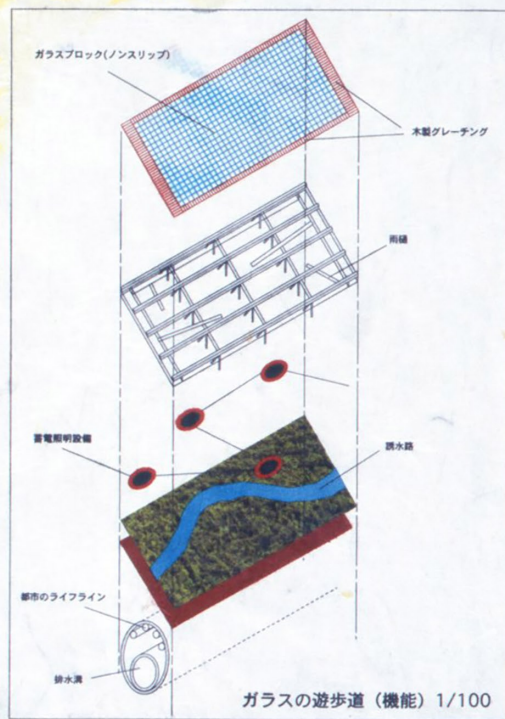
車道



ありふれた都市の風景。都市はまず大地にコンクリートのふたをすることからはじまる。その下の土は光を吸収することなく、植物は人の意図によってレイアウトされる。



ガラスブロックがつくる都市と大地の隙(きわ)わずかに開けられたすき間によって、歩道としての機能を果たしながらその下の大地に光を透過させる。都市の中に草の匂い、虫の音が聞こえはじめる。都市と自然の共存。



グレーチングと雨樋によって雨は土に吸収される。その他建物から出る生活排水や多量の雨は地下の排水溝を流れてゆく。



夜裏、ガラスブロックを透過して蓄電された光は夜になると反転し、足元を照らし出す光の道になる。